

さらに、『エジプト誌』図版各巻には展示しました見開きページ以外にも多くの精巧な図版が収録されていますので、その一部を撮影、パネル化を行って展示し、会場に彩りを添えました。

ロゼッタ・ストーンは1799年にナポレオンのエジプト遠征軍が発見した石板で、石板の上段、中段、下段と3つの言語による文章が刻まれています。実物は現在イギリス大英博物館に収蔵されており、本学所蔵のものは原寸大のレプリカです。今回、前述の『エジプト誌』の中で記されたロゼッタ・ストーンに関する図版もパネル化して、併せて展示しました。



<ロゼッタ・ストーン (レプリカ) >

加えてロゼッタ・ストーンを20数年かけて解読した言語学者の一人であるシャンポリオンが記した『古代エジプト語象形文字法要論』など古代エジプト研究の発展に大きく貢献した資料なども出展しました。

第3部は「ナポレオン戦争の頃、世界では」と題し、ナポレオンが公布し、各国の近代市民法の模範となった『フランス人の民法典 (ナポレオン法典)』、イギリスの詩人サウジーが記したナポレオン艦隊を撃破したイギリスのネルソン提督の伝記『ネルソン提督伝』などナポレオン戦争の動向による影響で誕生した書物を展示しました。

なかでも、オランダの長崎商館長ドゥーフ

が記した『通布字典』は、彼がナポレオン戦争の影響を受けてオランダ本国に帰国できなかった事により、編纂に着手した日蘭辞書で、日本の蘭学者に大きな影響を与えました。この事から『通布字典』は日本にもナポレオン戦争の影響があったことがわかる貴重な書物という事で来場者の関心を集めました。



以上、今回の展示会の内容についてご報告させていただきました。紙面の都合で展示会の全てについてお伝えすることはできませんが、お読みいただいている皆様今回開催しました展示会の雰囲気や少しでも感じていただければ幸いです。

本学図書館が掲げております「発信型図書館を目指して」の活動として、所蔵する貴重資料を皆様にご覧いただく稀観書展示会は大変重要なものとなっております。次年度以降も新たなテーマで開催を予定しています。

最後に、開催期間中には本学の学生、教職員のみならず、学外から多数の方のご来場がありました。ご来場いただきました皆様にお礼申し上げます。また本展示会の開催にあたり、各方面よりご協力いただきました関係各社の皆様にもこの場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

みやすぎ ひろし (管理運営課主幹)